

ワケ カタチには理由がある(35)

～三菱八試複座戦闘機(8-Shi Two-seats Fighter)



〔三菱の次作、七試単座戦闘機と↓〕



本機は、1934年に三菱が試作した試作艦上複座戦闘機です。後に零式観測機を担当する佐野栄太郎が設計した機体ですが、宮崎監督が漫画「風立ちぬ」(大日本絵画)で服部謙次と思われる堀越二郎の上司に「海軍内部の複座戦闘機支持派をだまらすためのやっつけ仕事だ… 300キロもでないやつに、空気抵抗もタヌキもヘチマもあるか」というセリフを言わせている機体で、三菱としても海軍がどれほど本機で複座戦闘機を採用する気があったのか疑っていたのかもしれませんが。中島飛行機と競作となって中島飛行機が有利だったものの、結局、海軍はいずれの採用を却下して複座戦闘機の採用を見送りました。この漫画のエピソードにあるように、三菱としては「流して」作った機体という気もします。実際、堀越二郎が設計した三菱9試単座戦闘機と比べてみると、その古めかしさが際立ちます。とはいえ、複葉に五角形の双尾翼という組み合わせは他にはなく、どこか味のある外観です。零戦へ続く三菱の王道とは別の、側道の機体ということができるでしょう。

【模型について】

ポーランドのコロジエ(Choroszy)製 1/72 のレジンキットです。実機写真と比べて多少機首が長い気がしましたので、3mm 強切り詰めてカウリングの幅を増やしています。試作機なので本来なら機番はついていませんが、架空塗装で他のキットから流用して付けました。

(中川裕幸 2021年7月)

